

CONTENTS

2019 年頭のご挨拶

(眼科)

緑内障の最先端治療の実践

(循環器内科)

All for the patient ～心に届く医療～

女性医師支援センターの
開設と取り組み

医療連携室からのお知らせ

編集後記



病院長
広域医療連携センター
センター長
内山 和久

2019 年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、6月に本院所在地である高槻市を震源とする大阪府北部地震、7月には西日本豪雨、9月には北海道胆振東部地震と台風21号が猛威を振るい、日本各地が甚大な被害を受けました。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

本院では患者さんの入院から退院までを一貫してfollowするPFM (Patient Flow Management) が軌道に乗り、医師・看護師・薬剤師など多職種によるチーム医療がより活性化されました。

また、京都大学、大阪大学のがんゲノム医療連携病院に指定され、遺伝子診断外来を設置しました。本院は三島医療圏の地域がん診療連携拠点病院ですが、本年4月からの国指定地域がん診療連携拠点病院(高度型)の認可を目指し、緩和ケア部門の充実など調整を行っています。

本年は「Super Smart Hospital」を目指した本格的な新病棟建設がスタートします。工事中は何かとご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、安全性に十分配慮し、職員一同、特定機能病院の名に恥じない高度な医療の供給と活発な連携を推進して参ります。

本年も皆さまの窓口となる「広域医療連携センター」を何卒よろしくご願ひ申し上げます。

眼科

緑内障の最先端治療の実践

こじま しょうた
 医長 小嶋 祥太



緑内障は日本人の中途失明原因第一位として大きな問題となっており、40歳以上の有病率が5%にも達しています。緑内障の唯一エビデンスのある治療法は眼圧下降療法であり、点眼で十分な眼圧下降が得られなかった場合はレーザーや観血的手術が必要となります。

■ 緑内障手術について

緑内障に対してもっとも広く行われている線維柱帯切除術(TE)ですが、急激な眼圧下降が危険な症例、効果不十分な症例もしくは結膜が脆弱など適応となりにくい症例があります。このような症例に対するアプローチとして、当科では厚生労働省での認可前から倫理委員会を通したうえで、チューブシャント手術(エクプレス、アーメド、バルベルト)に取り組んでおり、良好な結果を得ております(写真1)。

さらに近年では低侵襲手術(MIGS: Minimally Invasive Glaucoma Surgery)も積極的に行っております。眼圧下降作用が大きくなっていい、もしくは線維柱帯切開術(TO)が効果的と考えられる症例については、iStentやマイクロフック(写真2)を用いた手術を行っており、適応症例が増加しています。

通常のTOよりも眼圧下降が大きい、もしくは通常のTOで効果が期待できないぶどう膜炎続発緑内障などにも効果的であると考えられる、ナイロン糸を用いた360度TO(写真3)も前房内からのアプローチによるMIGS手術で行っています。

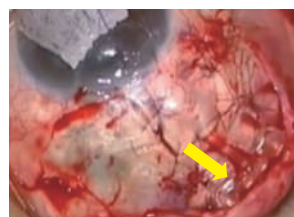
■ 最新治療法「マイクロパルス毛様体光凝固術」

最近では新しいレーザー治療法であるマイクロパルス毛様体光凝固術が話題になっています。これは、今までの毛様体を破壊して房水産生を低下させて眼圧下降作用を得る毛様体光凝固とは異なり、マイクロパルス波を使用した低エネルギーでの経強膜毛様体光凝固術であり、非破壊的に眼圧を下降させます。安全性と効果に関しては海外では多数報告されており、本邦でも良好

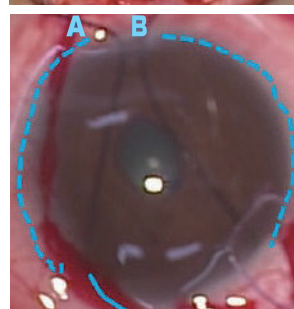
な成績が報告されつつあります。当科でも数例ではありますが難治性緑内障に施行し(写真4)、一ヶ月間良好な眼圧下降を得ております。さらにTE後の結膜脆弱化による房水漏出に対してオロジェンという移植用細胞外基質類似素材のパッチを濾過胞に内部から当てることで濾過胞漏出を消失させることにも成功しています。

今後も最新の緑内障治療を実践し失明を予防し、地域医療に貢献していこうと考えておりますので、是非患者さんをご紹介ください。ご紹介の際には本院医療連携室にてご予約をお願いいたします。

(写真1)
 矢印: 挿入されたアーメド緑内障ドレナージバルブ



(写真2)
 矢印: 線維柱帯に刺入されたマイクロフック先端



(写真3)
 シュレム管内に挿入されたAの糸を引くことで切開された部位(実線部分)とこれから切開される部位(破線部分)。Bも同様に破線部分が切開される。



(写真4)
 強膜上から毛様体にマイクロパルスレーザー照射を行っている。



当科の特徴

当科は角膜、網膜-硝子体、白内障、緑内障、斜視弱視、神経眼科、小児眼科、涙道、眼形成など、眼科のほぼすべての領域をそれぞれ専門のスタッフカバーしています。

循環器内科

All for the patient ～心に届く医療～



ほし が まさ あき
科長 星賀 正明

■ 心不全対策

急速に進む超高齢社会において、循環器領域では患者数の増加に加え、多くの併存症を有する複雑な症例の比率が上昇しています。特に心不全は、高齢者の生活の質(QOL)および生命予後を著しく冒し、その対策が大きな問題となっています。わたくしたちは、患者さんお一人おひとりの併存症や心理社会的側面に配慮し、多職種できめ細かな患者さんの心に届く医療を提供すべく努力しています。オリジナルの心不全パンフレットを用い、診療や介護におけるエビデンスの創出もめざしています(図1)。

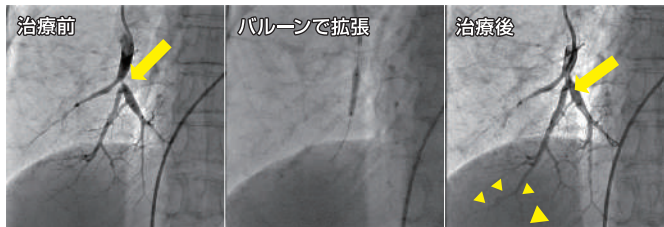


(図1)

■ 最先端医療

2016年7月から慢性血栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術を行っています(写真1)。また2017年10月から大動脈弁狭窄に対し、心臓血管外科・麻酔科および複数の職種でハートチームを結成し、経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)を開始し良好な成績を得ています(写真2)。ますます増加する高齢の大動脈弁狭窄症患者さんに対して、より良いチーム医療を提供する体制が整っています。

(写真1) バルーン肺動脈形成術



近位部の拡張とともに末梢の血流の改善を認める

(写真2) 経カテーテル的大動脈弁植込み術

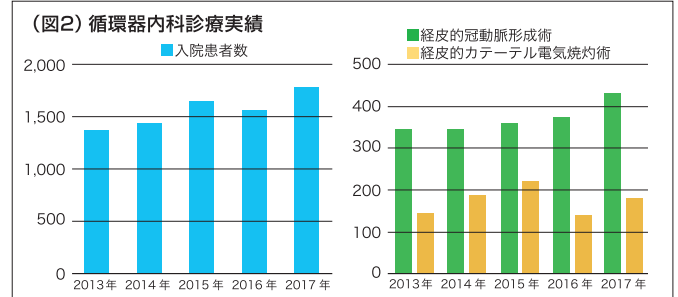


■ ホットラインと診療実績

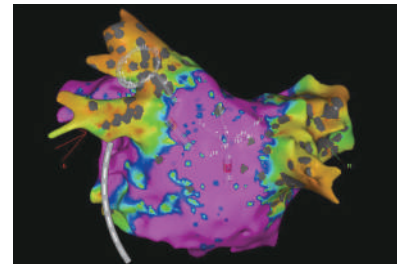
2013年6月から「循環器内科ホットライン」を開設し、地域の医療機関からのお電話を24時間365日担当医が直接対応し、治療開始が遅れることのない体制を整えています。おかげさまで、当科の診療実績は右肩上がりに伸びています(図2)。

カテーテル治療(冠動脈・末梢血管・不整脈に対するアブレーション)では、常に患者さんにとって最善最良の医療を提供できるよう、チーム一丸となって取り組んでいます(図3)。

緊急性が高い、入院加療が必要な患者さんのご紹介だけでなく、診断や治療方針など判断に迷われる場合でも広くお受けしております。どうぞお気軽にご紹介ください。



(図3) カテーテルアブレーションに用いる心臓マッピングシステム



■ 成人先天性心疾患

医療の進歩により先天性心疾患患者の9割以上が成人期を迎えます。小児期と成人後では問題点が異なるため、成人期の先天性心疾患に精通した医師による管理が必要です。当科では専門外来を設置し、小児循環器医と共に診療にあたっています。

■ 冠動脈CT専門外来

冠動脈疾患が疑われる患者さんの外来診療、冠動脈CTを同一日に行い、受診の翌診療日に結果をご報告させていただきます。冠動脈CTでは、冠動脈と左室壁運動の評価を行います。火曜日から金曜日の各日に予約をお受けしております。

ご紹介いただいた患者さんに最善の診療を行ったうえで、先生方へは診療内容を詳細にご報告するよう心がけております。明るく開かれた循環器内科として、先生方と共に地域医療を推進して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

女性医師支援センターの開設と取り組み

女性医師支援センターを開設しました

厚生労働省による「医師の働き方改革」の一環として、女性医師キャリア支援事業の取組みが全国的に進められています。大阪医科大学では2018年4月に女性医師支援センターを開設し、診療に従事する女性医師を中心に活動を開始しています。

出産や育児等で、一旦診療現場を離れる女性医師は本学においても少なくありません。そのような女性医師が診療の場で医師としてのキャリアを継続発展していくために、当センターでは各種相談、情報提供などの支援を行いたいと考えています。

具体的には女性医師および診療科長へのアンケート調査をもとに、まずは現場の声を聴き、そして寄せられた様々な意見を働き方改革に反映し、女性医師のための新たな短時勤務制度などのしくみを整備するよう関係先に働きかけています。

このような活動によって、女性医師がいきいきと医療現場で働き続けるお手伝いをする事は、患者さんへの安全で良質な医療の提供に繋がり、ひいては地域に貢献することになると考えています。

今後は男女共同参画に配慮しながらダイバーシティへと広げていきますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

女性医師支援センター センター長 かみざき ゆみこ
神崎 裕美子



事務局:大阪医科大学 総務部人事企画研修課

大阪医科大学女性医師支援センター

検索

医療連携室からのお知らせ

「連携医療機関登録制度」登録募集および登録内容変更時のお願い

平成25年10月より開始しました「連携医療機関登録制度」も平成30年11月末現在で、病院134、医科クリニック568、歯科クリニック222、計924医療機関さまのご登録をいただきました。登録時にいただいた情報は、本院からの紹介時に活用いたしております。

また「連携医療機関一覧」として本院玄関および本院ホーム

ページに掲載しています。ご登録がお済みでない医療機関さまはぜひご検討ください。

また、ご登録済の医療機関さまで登録内容にご変更(名称・代表者名・所在地等)がございましたら、医療連携室までご一報いただきますようお願い申し上げます。

大阪医科大学附属病院

検索

トップページ

→

医療機関の方へ

→

連携医療機関登録制度のご案内

編集
後記

新年明けましておめでとうございます。医療連携室スタッフ一同より新年のお祝いを申し上げます。

昨年4月に入職した新人スタッフ3名も最初は慣れない環境で必死に業務に取り組んでいましたが、早いもので今ではもう一人前になろうとしています。

医療連携室は、今年も先生方のご要望に沿えますよう、またより充実した診療内容を的確に患者さまに提供できますよう、精一杯頑張っております。

本年も医療連携室にご指導ご鞭撻をいただきますよう、よろしく願い申し上げます。



医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

●TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

●TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)



送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください